

一般社団法人全日本川柳協会

令和元年度通常総会議事録

(令和元年度—2019—)

日 時	令和元年 6 月 16 日 (日)
場 所	アクトシティ浜松

令和元年度通常総会議事録

一般社団法人全日本川柳協会

1、日 時 令和元年 6 月 16 日（日）10：00～11：00

2、場 所 アクトシティ浜松

3、出席者の確認

出席者数 72 名・委任状出席 165 名・合計 237 名

正会員現在数 334 名の内上記のとおり定足数 167 名に達しており、よって定款第 17 条により当総会の決議事項は有効である事を確認した。

4、議事

小島和幸理事長が議長となり挨拶ののち、次の事項を審議決定した。

議案第一号 平成 30 年度事業報告承認の件

① 会議に関する事項（本田事務局長説明）

② 会員ならびに役員、常任幹事に関する事項（本田事務局長説明）

③ 事業に関する事項（本田事務局長説明）

議案書に基づきこれらを一同に諮ったところ、全員一致これを承認した。

議案第二号 平成 30 年度収支決算報告承認の件

事務局から平成 30 年度収支決算について説明があり、これらを一同に諮ったところ原案通り、異議なく全員一致これを承認した。

報告第一号 平成 30 年度監査報告の件

矢澤監事から収支計算書、貸借対照表、財産目録など帳簿・伝票と照合して監査した結果正しく記載、運用されていた、また、事業運営についても適切であると認められた旨の報告があった。

議案第三号 任期満了に伴う理事・監事選任および新常任幹事選出の件

任期満了に伴う理事の選任について提案がなされた。その結果推薦された理事は次のとおり。

理 事 小島 和幸・江畑 哲男・天根 利徳・岡崎 守・赤井 二郎
雫石 隆子・田中 新一・本田 智彦・平田 朝子・松代 章弘
佐藤 美文・植木 利衛・島田 信一・菅原 孝志・鈴木 公弘
長谷川三紀夫・安藤 紀佑・今田 久帆・坂下 清・福本 清美

また秋田恂監事より辞任届が提出された旨の報告があり、後任者選任について提案がなされた。

監 事 高瀬 一博

その可否を議場に諮ったところ、全会一致承認可決した。なお、被選任者はその場でその就任を承諾した。

常任幹事選挙の集計結果の報告がなされたのち、理事会推薦の常任幹事のお名前に記載漏れがあり、議案書訂正のお願いがあった。（不備がございましたことお詫び申し上げます。）議場に諮ったところ、全会一致承認可決した。

報告第二号 全国大会表彰の件

議長から議案書に基づき、表彰該当候補者について諮ったところ、全員一致でこれを承認した。

1. 前年度開催地熊本大会実行委員会への感謝状
2. 10年以上大会連続出席者に対して表彰の件
 - ① 10回連続大会参加者 勝又 恭子・中前 棋人・水品 団石・望月 弘
弘兼 秀子・高木 旬笑・土橋 旗一・横尾 信雄
 - ② 15回大会連続参加者 辻 敬子・辻 晩穂・松浦美恵子・鈴木さくら
渡辺 松風・田原せいけん
 - ③ 20回大会連続参加者 荻原美和子・本田 智彦
3. マスコミ柳壇の指導を10年以上行った者 石川 川柳・今田 久帆・望月 弘
4. 特別表彰 杜 青春
5. 80歳以上の功労者顕彰 青木土筆坊・真弓 明子・近江あきら・久崎 田甫
平山 繁夫
6. 第12回川柳文学賞
 - ① 正賞 「川柳作家ベストコレクション 徳永 政二」 徳永 政二著
 - ② 準賞 「あぶく」 黒川 孤遊著
「川柳作家ベストコレクション 赤松ますみ」 赤松ますみ著
7. 第21回全日本誌上大会表彰
 - ① 平成柳多留賞
「バンザイを叫ぶ怖さを知っている」 カナダ 福村まこと
 - ② 川柳大賞
「年輪の歪み絶叫した跡だ」 長 崎 平井 翔子
 - ③ NHK会長賞
「助けてと叫んでいいのですいじめ」 広 島 高東八千代
 - ④ 日本青少年育成協会会長賞
「核ゼロの世界見るまで生きてやる」 大 阪 岩佐ダン吉
 - ⑤ 全日本川柳協会賞
「被災地は陛下のかがむ背に和む」 島 根 田中 堂太
 - ⑥ 全日本川柳誌上大会賞
「平成のゴールに惜しめない拍手」 愛 知 佐藤ちなみ
「八月のコインただれたまま無口」 和歌山 倉橋 悦子
「百歳の微笑に緞帳が怯む」 広 島 笹重 耕三
「人間に触れると汚れ出すコイン」 広 島 高東八千代
「長生きはカーテンコールかも知れぬ」 愛 媛 清水佐代子

その他

1. 加盟柳社減少に対する対策について、次のような意見があった。
 - ・次の会議から退会した柳社の一覧の資料があったほうが良い。
 - ・キャッチフレーズ（殺し文句）や加盟するメリットなど具体的にアピールする。
 - ・（メリットとして）後援申請をすれば祝電・賞状・楯などを出すことができる。（但し楯は有料5千円）
2. 大会に参加するためにアルバイトをしている方もいると聞き及んでいる。参加費を低額にするために記念品は無くした方がよいのではないか。（一方、現状で良いという意見もあった。）
3. 日川協の現状を憂う意見、事務局の組織強化を願う意見、プロジェクトチームを作るという将来に向けた提言等々、活発な議論が交わされた。
4. 平成柳多留第21集の誌上大会参加者自選句について、上句、中句、下句を一字空けで出句したが、空けられずに掲載されたとのクレームについて、確かに元句はパソコン打ちで一字空きだったが、空けるようにとの指定はなかった。小島理事長から、どうしても一字空きで掲載を希望する場合は、朱書きで一字空けの指示があれば今後は対応する手紙を出した旨の報告があった。